

フェーシングに伴うリスクへの対応

平成26年4月28日
東京電力株式会社

1-1. フェーシングの実施に伴うリスクへの対応

フェーシングを実施することにより、汚染水が海域に流出するリスクが増加する可能性がある。

■地震等により貯留水がタンクより漏れいし海域に流出するリスク

⇒検討の概要を1-2. に示す。

なお、26年度末には濃縮塩水の処理が終わる予定であり、スロッシング対策も進捗している見込みであることから、フェーシング実施中に高濃度の汚染水の海域流出リスクは低減していくものと考えられる。

■表流水の流量・流速の増大のリスク

⇒集中豪雨に対応できる排水路の整備を行うとともに、想定を上回る降雨により排水路で処理できない場合でも、汚染水が増加することのないよう対策を検討する。

■建屋内外の水位コントロールのため周辺地盤への注水が必要になる可能性が高まるリスク

⇒陸側遮水壁とともに整備するリチャージシステムの活用等を検討する。



1-2. タンク汚染水の表面流出リスク対策

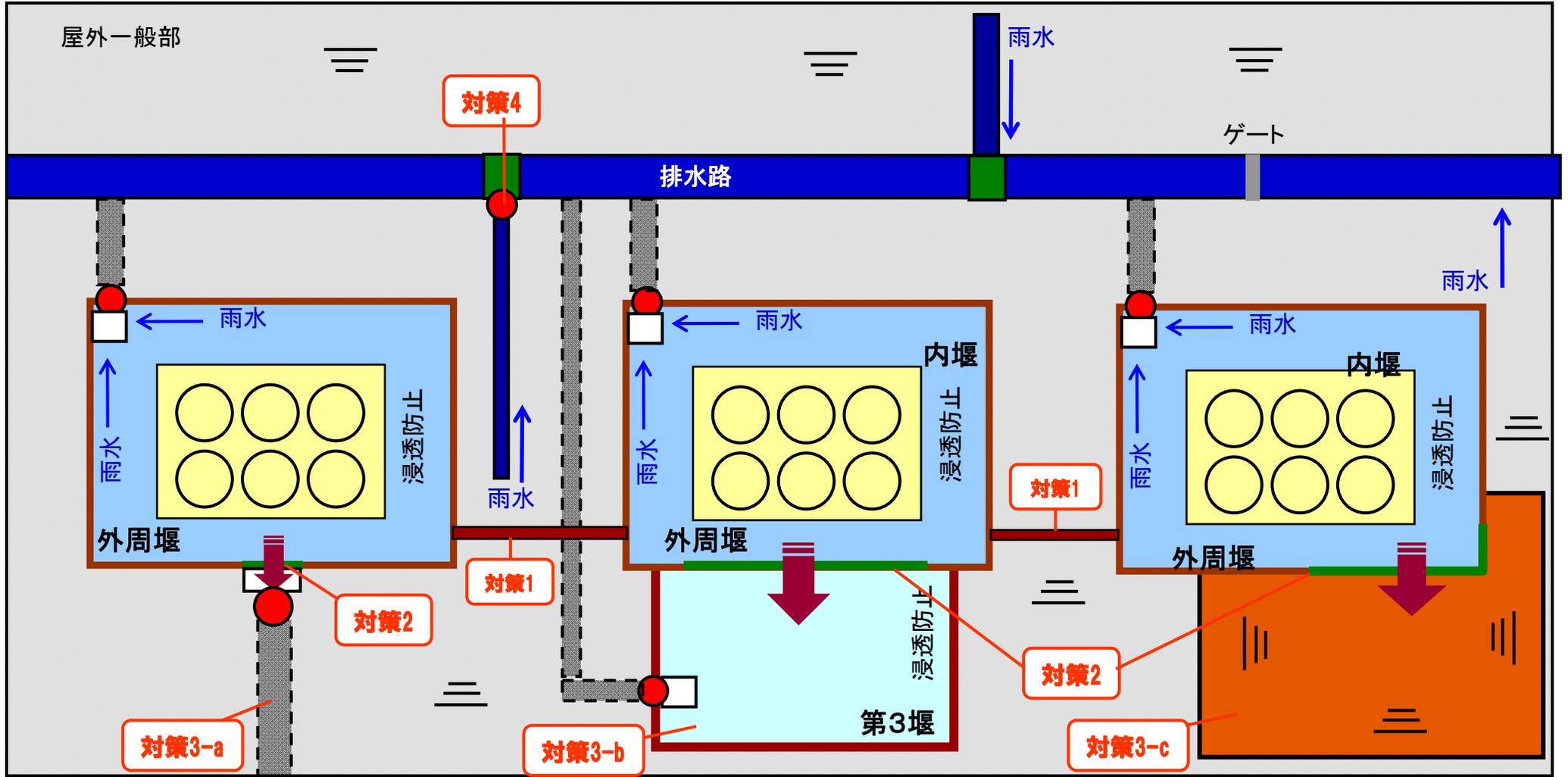
想定するリスク： タンクの外周堰から汚染水が溢れる事象が発生した場合、フェーシングにより、汚染水が表面水として排水路（海）へ流出する

想定するリスクに対しては次のような対策案等が考えられ、現場の状況に応じた検討を進め、場所毎に適切なものを選択する。

- **対策案1・・・外周堰の貯水機能を強化する**
 - ・隣接する外周堰を連結し、外周堰内での汚染水の貯水機能を高める。
- **対策案2・・・溢水する場所を特定する**
 - ・万一、外周堰から溢水する場合でも、排水路から遠い場所から溢水するよう特定箇所に「切りかき」「排水管」等を設ける
- **対策案3・・・溢水した汚染水を排水路に近づけない**
 - ・現場状況に応じて、下記3つのいずれかの対応
 - a. 溢水した汚染水を地下貯水槽に暗渠で導流する。
 - b. 外周堰の外側に第3の堰を設ける。（第3の堰の運用は外周堰と同様とする）
 - c. 汚染水が排水路に近づかないよう地盤勾配を設け、フェーシング対象外とする。
- **対策案4・・・表面流水（汚染水）を排水路に流さない**
 - ・フェーシングの表面流水が排水路に流れないように、排水路への接続部に弁を設ける。



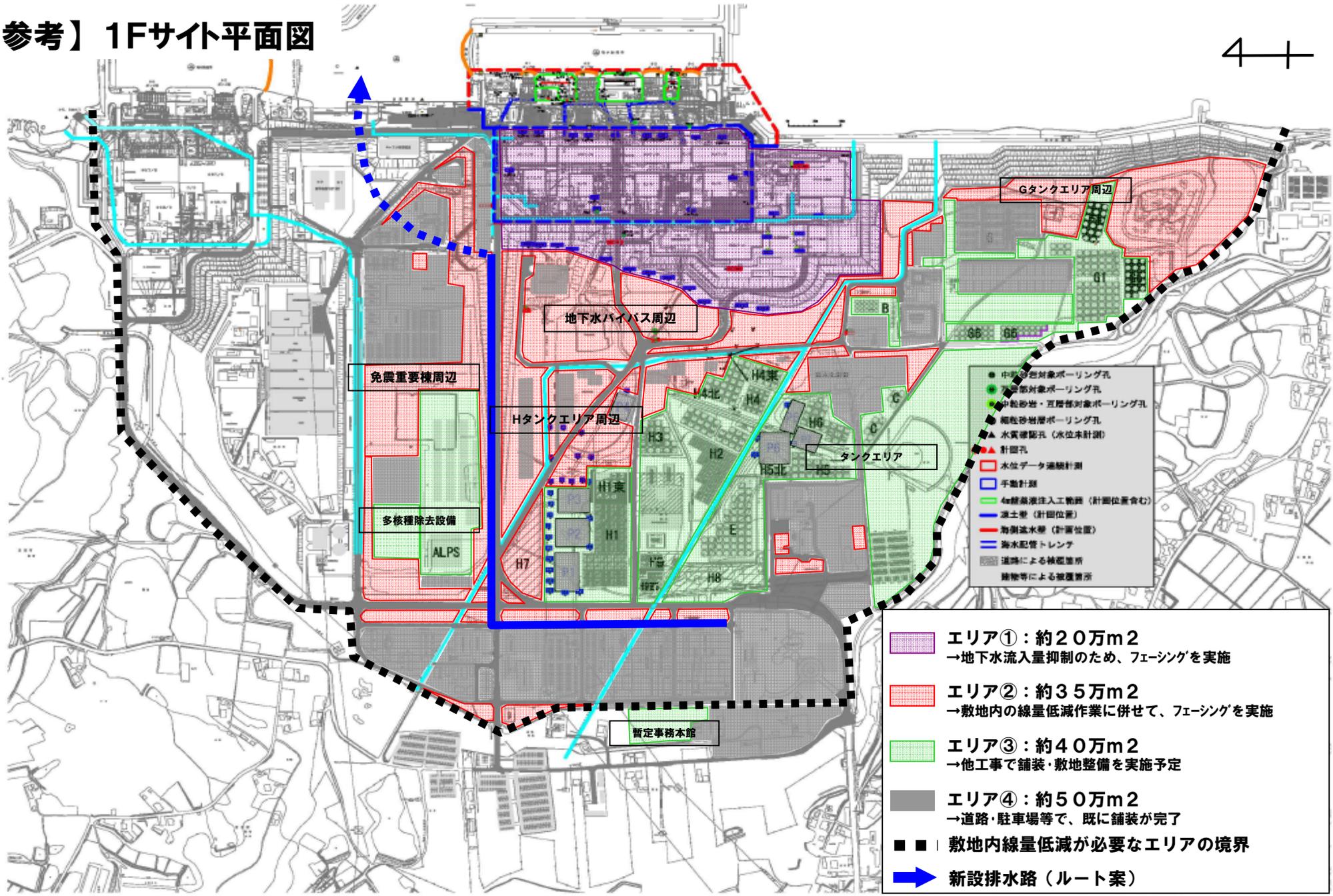
【参考】タンク汚染水の表面流出リスク対策（候補案）



地下貯水槽等へ暗渠排水

【参考】1Fサイト平面図

4+



- エリア①：約20万m²**
 →地下水流入量抑制のため、フェーシングを実施
- エリア②：約35万m²**
 →敷地内の線量低減作業に併せて、フェーシングを実施
- エリア③：約40万m²**
 →他工事で舗装・敷地整備を実施予定
- エリア④：約50万m²**
 →道路・駐車場等で、既に舗装が完了
- 敷地内線量低減が必要なエリアの境界**
- 新設排水路（ルート案）**

【参考】フェーシング作業の流れ

